

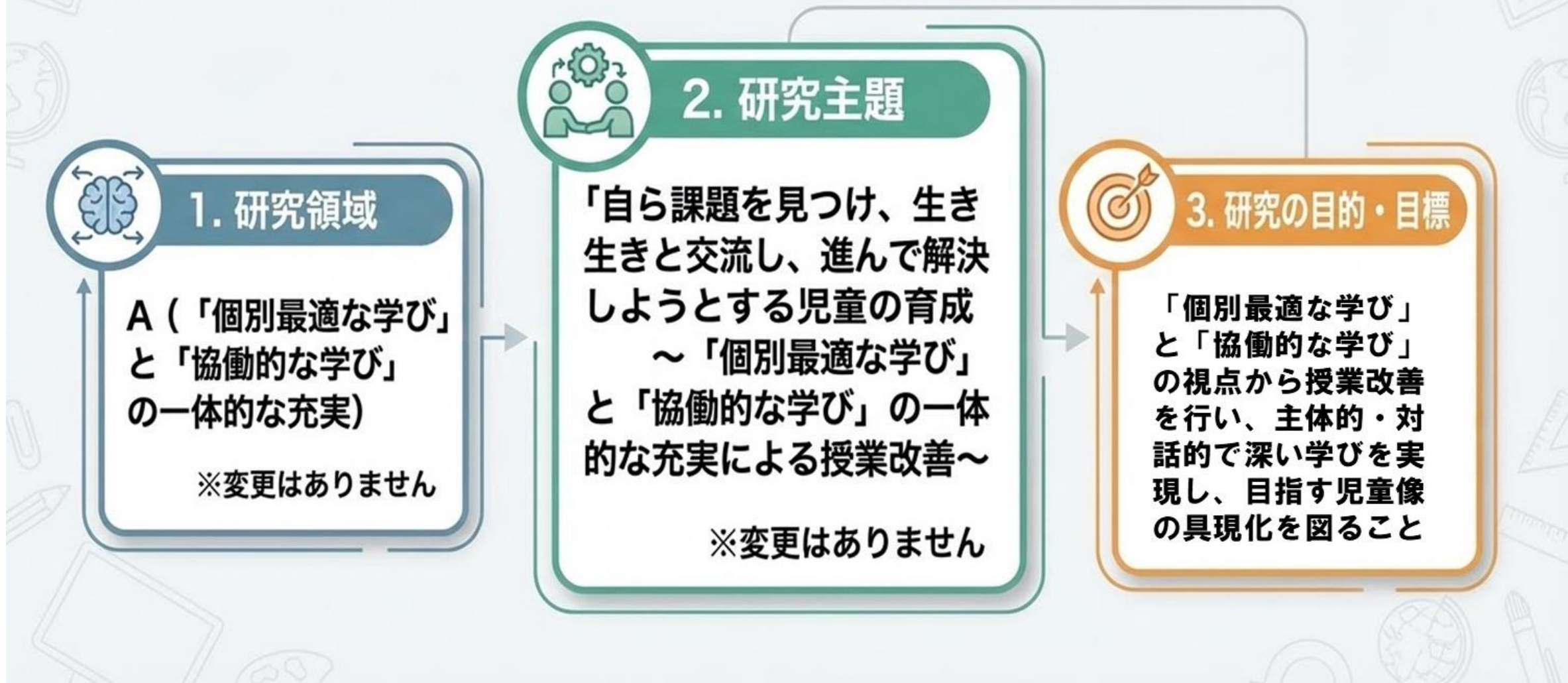


令和7年度 教育データ利活用WG実証研究校 成果報告会

さいたま市立美園小学校 取組報告

○令和7年度 美園小学校 学校課題研修 全体計画について

I. 研究の基本方針



○令和7年度 美園小学校 学校課題研修 全体計画について

Ⅱ. 令和7年度の主要な取組と目標

「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実、およびクラウド・データ利活用のさらなる追究



目標Ⅰ：「個別最適な学び」の改善



視点：自分で課題を見つけるための授業改善

- ・ 振り返り、自己評価（ルーブリック評価）
- ・ 児童主体の学習計画作成
- ・ ICTの効果的な活用



目標Ⅱ：「協働的な学び」の探求



視点：生き生きと交流しあうための授業改善

- ・ 技術的な支援（話型、司会台本、質問の仕方、語の聞き方、反応の仕方の指導など）
- ・ 深めるための支援（よりよい考えを導く方法、他者との比較のポイントなど）
- ・ ICTの効果的な活用



2. 授業デザインの「R7 統一事項」（コーン/土台）

【導入】学習のめあてがはっきりわかる

【展開①】児童が学習形態・学び方を選択できる

【展開②】児童が自ら学びを進められる、学び方カードを活用できる

【展開③】児童がクラウドを活用する（Word, Excel, Teams, オクリンク, Canva, PowerPoint, ミライシード等）

【まとめ】児童が学びの視点を意識したふりかえりを行う



3. 教育データの利活用（欠かせない視点）

「○○の教育データを、△△と捉え・分析し、単元や授業づくりに生かした」という視点を日々の授業づくりから意識・研究しています。

レディネステスト

独自アンケート

ミライシード

スタディサブリ

研修児童アンケート

市学力状況調査

SSDB

児童の作品・ノート

毎時間のふりかえり



全体を把握する視点

全体のデータ・数値から集団の実態を読み取り、集団に適した指導に生かす（スクールダッシュボード（スクタン）や学びの指標を活用）。



個を読み取る視点

全体から外れた分布にある児童に焦点を当て、個別支援を考える。

○令和7年度 美園小学校 学校課題研修 全体計画について

Ⅲ. 研究の実施状況と成果・課題

令和7年度 研究の深化と成果、そしてR8年度への展望

1. 研究の実施状況

令和7年度 全教職員が統一事項を意識した授業づくり

2学期：グループでの実践深化、授業公開と協議

10月末：中間報告会

11月末：学年発表会

1月28日(水)：指導課訪問C

2. 成果：教職員の意識と実践（アンケート N=50）

研究への積極的な取組（肯定的な回答）

「個別最適な学び・協働的な学びの一体的な充実」を意識 86%

研究主題を意識 82%

教育データ利活用の有用性を理解・意識 72%

R7統一事項の実践（したことがあるもの）

学習のめあてがはっきりわかる授業 84%

児童が課題・学習形態・学び方を選択する授業 80%

児童が学びの視点を意識したふりかえりを行う授業 80%

児童がクラウドを活用する授業 76%

3. 成果：児童の変化（研修アンケート平均値）

質問項目	R7 1学期	R7 2学期	全国平均
学校での勉強は大切	99%	99%	-
授業で課題解決に自分で取り組む	92%	93%	81.9%
自分に合った教え方・教材	92%	91%	84.3%
友達との話し合いで考えを深める	90%	93%	86.3%
学習内容のふりかえりと次への活用	88%	89%	80.8%

主体性や個別最適に関わる質問において、全国平均と比較して高い水準を維持。

4. 今後の課題と展望（R8年度への継承）

来年度(R8年度)に校内で統一したい事項（教職員アンケート上位）は、R7年度の統一事項とほぼ一致。引き続き、これらの視点での授業改善が重要。

- ・児童が学びの視点を意識したふりかえりを行う授業（35件）
- ・児童が課題・学習形態・学び方を選択する授業（32件）
- ・学習のめあてがはっきりわかる授業（25件）
- ・学習のゴールが明確な授業（25件）
- ・児童がクラウドを活用する授業（24件）

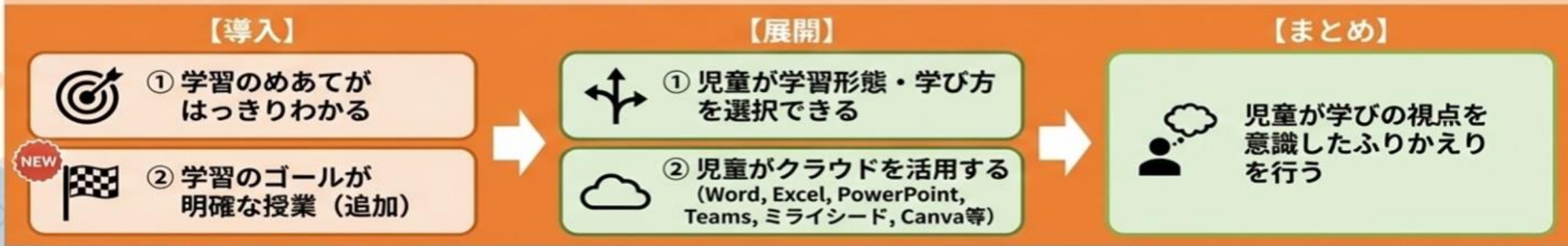
○令和7年度 美園小学校 学校課題研修 全体計画について

IV. 来年度に向けた方向性（令和8年度） 研究のゴールと新たな統一事項、掲示物の活用

1. 研究のゴール（令和8年度本発表に向けて）と具体的な取組



2. R8年度 統一事項（R7事項＋追加項目）

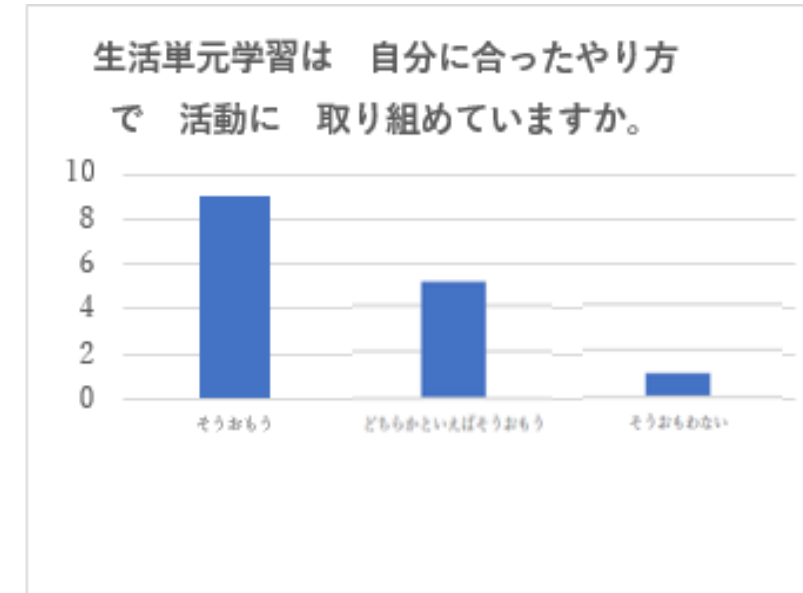
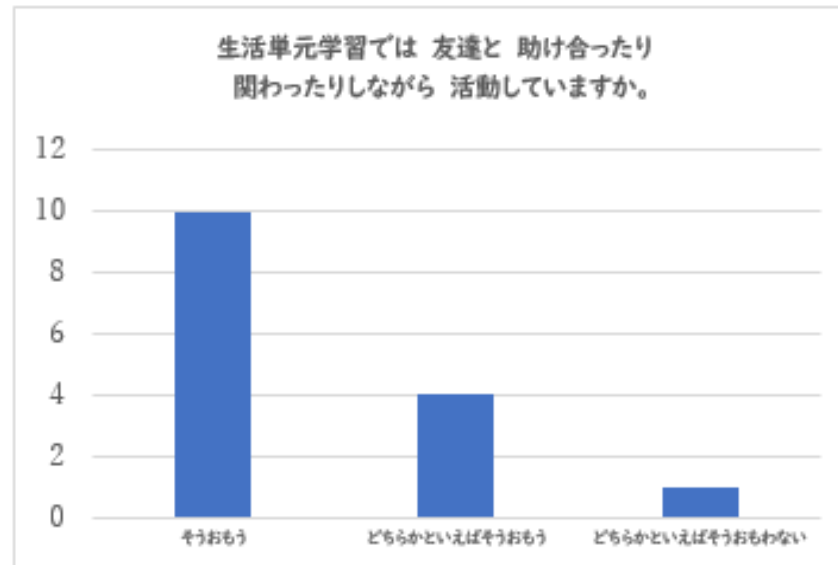
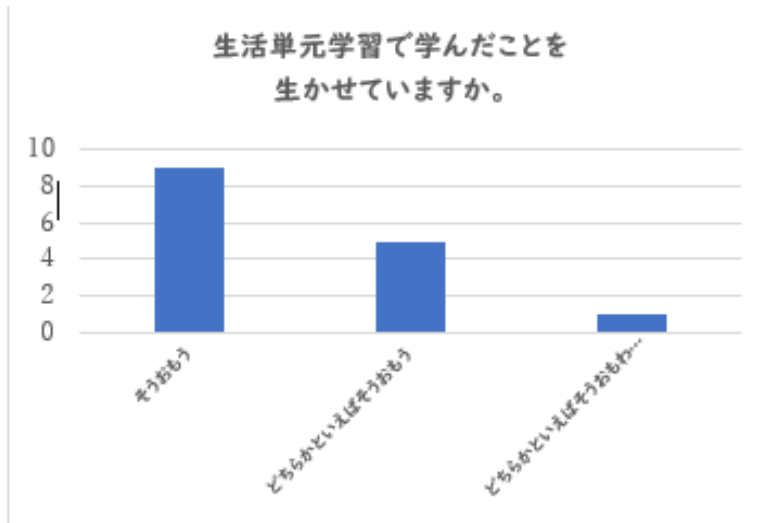


○令和7年度 美園小学校 教育データ利活用の実践取組について①

視点	 【教員】学期ごとの児童一人ひとりの学びに向かう力を把握し、 実態に合わせた指導の工夫
状況・課題	担任の主観で児童の実態把握を行うことで、データとしての裏付けが弱い。 また、進級の度に児童の実態把握のし直しで、指導の継続性がなくなっていた。
目的（願い）	クラスや児童個人の実態に応じた指導を行いたい。
データ項目	教科に関するアンケート（にじいろ学級） 学びの指標アンケート（1、2年生）、ScTN（3、4、5、6年生）

○令和7年度 美園小学校 教育データ利活用の実践取組について①

- 指導案の「児童の実態」に、読み取った教育データを明記する。
- ・教科に関するアンケート（にじいろ学級）



○令和7年度 美園小学校 教育データ利活用の実践取組について①

●指導案の「児童の実態」に、読み取った教育データを明記する。

・学びの指標アンケート（1、2年生）

⇒「個別最適な学び」と「協働的な学び」の視点でアンケートを分ける。

⇒授業後にチェックリストを活用し、数値の変容を読み取る。

2 単元について

（1）児童の実態

（i） 本学級の児童は、全体的に課題に対して積極的に取り組むことができる。授業の課題に対して、最後までしっかり取り組みたいという思いをもっている。算数の時間には、進んで計算を解いたり、発表したり、前向きに取り組んでいる。その一方で、答えはわかるが計算の仕方をノートに書いたり、説明したりすることが難しい児童もいる。

指標		上段：結果	下段：目標	
①	自分一人で、考える場面がある	2.8	3	▲
②	授業で学習したことを、振り返っている	2.7	3.3	▲
④	試したり繰り返したりして、答えを考えている	2.4	3.5	▲
⑨	先生が、授業のめあてや目標をわかりやすく教えてくれる	3.1	3.4	

図1 個別最適な学び

（ii） 学びの指標のアンケートの質問項目1、2、4、9「個別最適な学び」についての回答は、平均より低い。特に、項目4の「試したり繰り返したりして、答えを考えている」の部分が低いことがわかる。自分で考える時間を多く取り、見通しをもって取り組めるように工夫していく。

指標		上段：結果	下段：目標	
④	試したり繰り返したりして、答えを考えている	2.4	3.5	▲
⑤	友だちの考えのよいところに気付いている	2.7	3.4	▲

図2 協働的な学び

（iii） 学びの指標のアンケートの質問項目4、5「協働的な学習」についての回答は、平均より低い。協働的に学べるように、交流の仕方を工夫し、交流のよさを感じさせられるようにしていく。

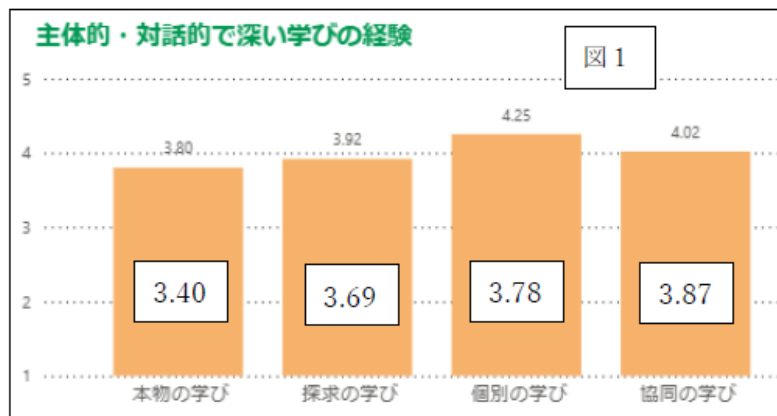
○令和7年度 美園小学校 教育データ利活用の実践取組について①

●指導案の「児童の実態」に、読み取った教育データを明記する。

・ScTN(3、4、5、6年生)

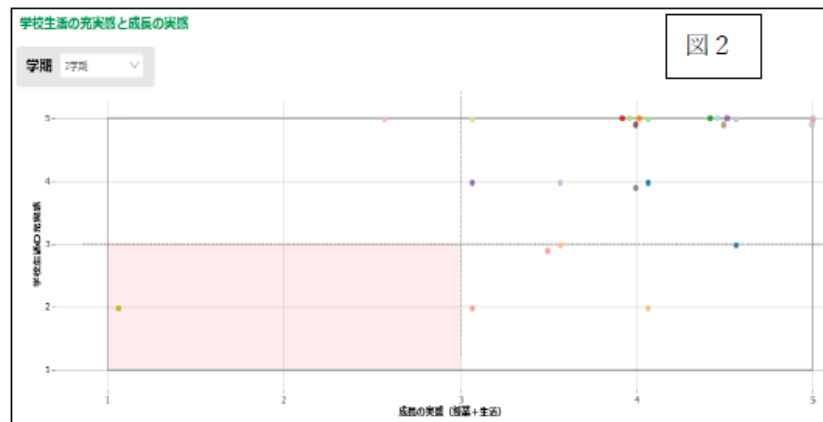
(ii)「主体的・対話的で深い学びの経験」(図1)の項目では、全ての数値が3年生の平均より高い。

今回は「探求の学び」と、「協働の学び」の数値と、その2つの項目の関連性に注目し、「友達と協力しながら課題の解決を目指して試行錯誤する活動」を行い、その力をさらに高めていく。



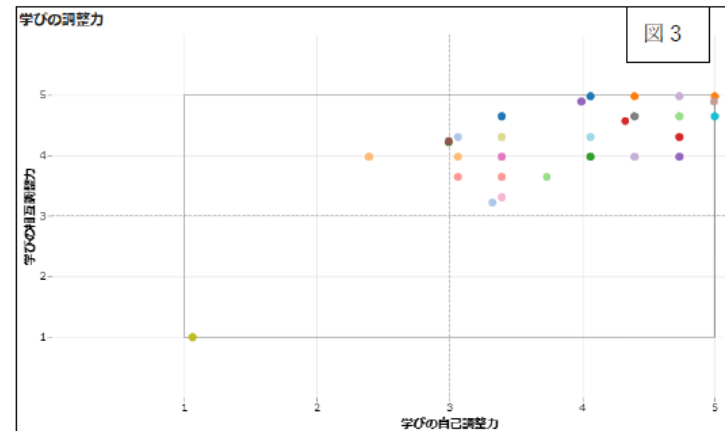
(iii)「学校生活の充実感と成長の実感」(図2)の項目では、どちらの数値も高い児童が多い一方で、「学校生活の充実感」が低い数値の児童もいる。

「成長の実感」(横軸)が上がると「学校生活の充実感」(縦軸)が上がるという関連性に注目し、「課題について自分で実験を進め、解決していくことで得られる達成感」から、「成長の実感」を感じられる授業を構成していく。



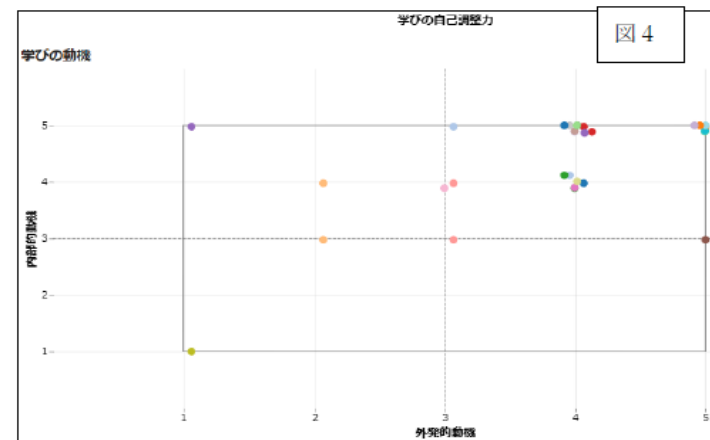
(iv)「学びの調整力」(図3)の項目では、「自己調整力」・「相互調整力」のどちらも高い数値の児童が多く、「学ぶこと全般に苦手意識を持っている児童は少ない」ことが読み取れる。

今回はその特性を生かし、「自らの必要感で実験し、結果を友達と共有する活動」を通して、学びを調整し、深めていけるようにする。また、数値の低い児童には、担任から声掛けを行い、学びを進めていけるようにしていく。



(v)「学びの動機」(図4)の項目では、全体的には高い数値にありつつ、ばらつきもある。

今後、学習効果が高いとされている「内発的動機」を高めるために、「成果を認められる場」や「達成感を可視化させる工夫」を取り入れつつ、「自分で問いを立てる活動」や「学びが生活や将来につながる実感を得られる体験」を設定するなどの手立てを行い、「やらされている学び」から「自分で意味を見いだして取り組む学び」へと移行できるように支援していく。



○令和7年度 美園小学校 教育データ利活用の実践取組について①

●指導案の「児童の実態」に、読み取った教育データを明記する。

・ScTN(3、4、5、6年生)

⇒「主体的・対話的で深い学び」

「学校生活の充実感と成長の実感」

「学びの調整力」

「学びの動機」

「認知的個性」等のデータ項目から
クラスの児童の実態を把握。

⇒「全体指導」と「個別支援」の視点。

⇒授業後、学期ごとに数値の変容を
読み取る。

(vi)「認知的個性」(図5)の項目では、以下のような読み取りと手立てを行う。

○「言語的」「論理数学的」の項目にはばらつきがある。

○「内省的」「対人的」「博物的」の項目は高い傾向にある。

・「言語的」…書く、話す、聞く等の活動で力を高めつつ、苦手な児童は文章以外の
図や数値でも結果を表せるようにする。

・「論理数学的」…実験結果を一つずつ順番に、順序だてて確認できるようにする。

・「博物的」…自分が気になるものを調べ、物ごとに分ける活動を行う。

・「内省的」…自分の学習方法について深く考える、ふりかえりの時間を設ける。

・「対人的」…積極的に協力しながら課題に取り組むこと選択できる場面を設ける。

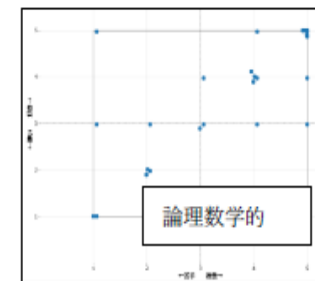
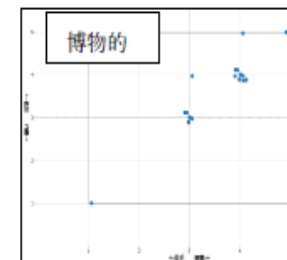
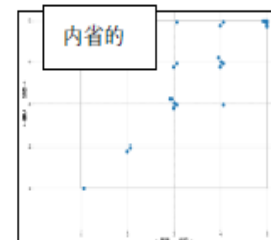
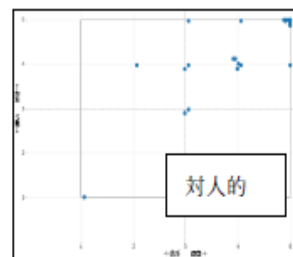
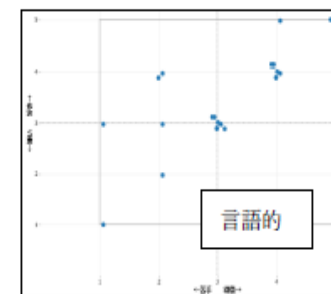


図5



○令和7年度 美園小学校 教育データ利活用の実践取組について②

視点	 【教員】授業時間・単元ごとの児童一人ひとりのエンゲージメントを把握し、実態に合わせた指導の工夫
状況・課題	担任の主観で児童の実態把握を行うことが多く、データとしての裏付けが弱い。また、進級の度に児童の実態把握のし直しで、指導の継続性がなくなっていた。ScTNが学期ごとのため、こまめに児童の学びに向かう力を読み取れていない。
目的（願い）	クラスや児童個人の実態に応じた指導を行いたい。 行った指導に対する児童の変容を確認したい。
データ項目	まなびメーター（授業）、まなびメーター（単元）

○令和7年度 美園小学校 教育データ利活用の実践取組について②

- 指導案の「児童の実態」に、読み取った教育データを明記する。（まなびメーター）
- ⇒教科ごとの学びのエンゲージメントのデータがとれる。
- ⇒授業ごと、単元ごとのデータがとれる。
- ⇒「興味・楽しさ」、「自己調整」、「粘り強さ」、「協働性」の4項目で読み取ることができる。

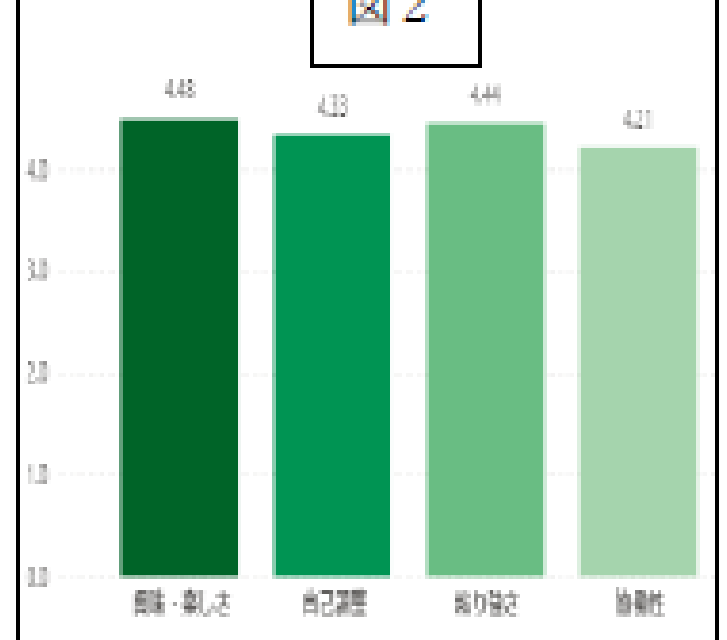
ウ 2学期、理科の単元ごとに行ったまなびメーターの「学級毎の意欲の分布」（図2）の各項目では、理科に対する意欲が全体的に高いことがわかる。
SSDB 上の AI による実態分析は以下の通りである。

アンケート項目ごとの平均値の割合

意欲（エンゲージメント）別のアンケート項目		2未満	2以上4未満	4以上
① 興味・楽しさ	2. 学校で授業を受けるのは面白い。		15.15%	84.85%
	3. もっと学習して、いろいろなことを知りたいと思う。		15.15%	84.85%
② 自己調整	1. 学習の方法や進め方について、考えたり、工夫したりしている。		12.12%	87.88%
	2. 目標を立てて、それを達成して学習している。		20.27%	79.73%
③ 粘り強さ	4. 難しい問題でも、最後まであきらめずに取り組んでいる。		12.12%	87.88%
	5. 授業に自分からの進んで取り組んでいる。		18.18%	81.82%
④ 協働性	6. ひとりで解決するのが難しい時は、仲間と協力したり、友だちの考えを参考にしながら学習している。	3.03%	18.18%	78.79%
	7. 自分が得意な学習では、他の学習が得意な友だちと学習している。	3.03%	18.18%	78.79%

学級毎の意欲の分布

図2



○令和7年度 美園小学校 教育データ利活用の実践取組について②

- 指導案の「児童の実態」に、読み取った教育データを明記する。
⇒AIがデータを読み取り、分析とアドバイスをする。

【研究用 SSDB 上の AI インストラクション】 ⇒ 【データ分析とアドバイス】⇐

【興味・楽しさ】↓

子どもたちは理科の学習を「楽しい」「知りたい」と感じており、知的好奇心や有能さへの欲求が高い状態です。積極的な行動を通じて深い理解が促進され、学習への努力や持続性の基盤が整っています。社会的な成果も高く実感できている様子です。⇐
⇒「楽しい」「やってみたい」と思える活動を中心に授業を構成しましょう。子どもたちが成功体験を積めるように工夫し、教師からの承認的な声かけで安心感や信頼感を育てることが大切です。⇐

【自己調整】↓

目標設定や学習の進め方について、自分で考え工夫しながら取り組む姿勢が見られます。自分の思考を客観的に捉える力（メタ認知）や自己効力感も高い傾向です。教師の支援を受けながら、自己調整の力を育てている段階です。⇐
⇒目標（めあて）を明確に伝え、短い言葉で児童に復唱させるなどして意識化を図りましょう。「次に何をするのか」を具体的に共有し、見通しを持たせることが効果的です。教師の具体的な支援を通じて、自己調整の力を少しずつ育てていきましょう。⇐

【粘り強さ】↓

活動への集中や持続性が高く、難しい問題にも最後まであきらめずに取り組む力（グリット）が育っています。成績とも良い関係があり、達成への意欲的な取り組みが見られます。⇐
⇒小さな成功体験を積み重ね、「頑張るとできる」という感覚を育てることが重要です。「ここまでできたね」と具体的に認める声かけを重ねることで、努力することの意味を実感させてあげましょう。⇐

【協働性】↓

友だちと助け合い、協力しながら学習に取り組む姿勢が強いです。自分が得意なことを友だちに教えるなど、協働の価値を感じており、共感性や対人スキルも高い傾向です。⇐
⇒「いっしょにやると楽しい」という気持ちを育てるため、助け合う活動を多く取り入れましょう。協力する喜びや仲間意識を支えるために、教師の承認的な声かけを意識して行うことが効果的です。⇐

○令和7年度 美園小学校 教育データ利活用の実践取組について②

- 指導案の「指導観」に、読み取った教育データから練った指導の方針を明記する。
⇒全体の視点

※平均値に加え、
分布で読み取る。

イ 指導の重点・研究主題にせまるための手立て

データから読み取った（１）児童の実態と（２）教材観をあわせ、研究主題の達成に向けて、主に３つの手立てを講じて指導していく。

- ①【個別最適な学びの視点】児童が自分の興味をもったものについて調べられるよう選択学習を行う。教師が準備した素材に加えて、自分が調べたいと思った物を選び実験することで、主体的に学習に取り組めるようにし、「自分で意味を見いだして取り組む学び」の実現を図る。また、一人、ペア、グループなど学習形態も選択できるようにすることで、個別最適な学びへとつなげていきたい。
- ②【協働的な学びの視点】それぞれが実験で得た結果を交流する時間を設定する。実験結果を共有することで、比較したり、考えを広げたりできるようにする。交流する際には視点を提示し、何のために交流しているのか、目的意識をもって交流できるようにする。また、実験の途中で交流の時間を設定することによって、他の物でも調べてみたいという意欲につなげられるようにしたい。
- ③【個別最適な学びの視点】主体的・対話的で深い学びにつなげるために、ふりかえりシートによるメタ認知を促すことによる自分の変容と成長を実感させる。１時間ごとに、最初に自分の学習目標を決め、最後に学習内容と学習方法に対するふりかえりを重ねることで、次の学習へ臨む意欲やもっと知りたいという知的欲求を駆り立てることが、主体的な学びにつながると考える。児童が書いたふりかえりシートをもとに、毎時間教師が、児童の学びに対する個別のフィードバックを行うとともに、全体として理解が足りていないところ等を補足していく。また、授業の方向性も、ふりかえりシート等の内容を確認しながら調整して進めていく。

○令和7年度 美園小学校 教育データ利活用の実践取組について②

●指導案の「指導観」に、読み取った教育データから練った指導の方針を明記する。

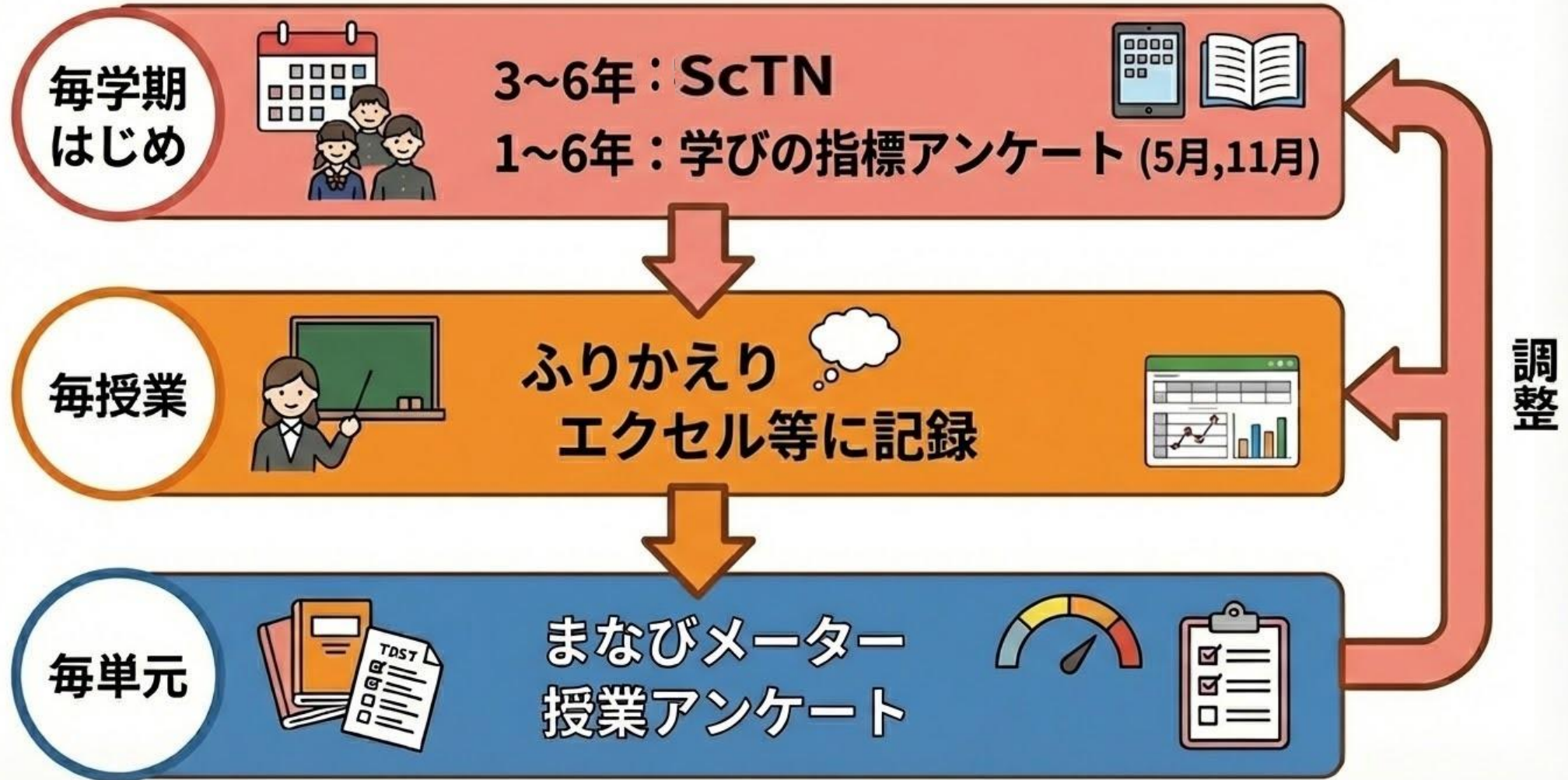
⇒個の視点

※データの分布が外れている児童に焦点を合わせる。

ウ 配慮を要する児童への手立て	
データから読み取れる課題	手立て
学習の調整力、充実感が低い傾向	今行っている学習内容と方法について話し、言語化できるように促しつつ、肯定的な声掛けを行う。
交流スキルが低い傾向	学習の様子を見つつ、困っていたら交流を促す。
交流スキルが低い傾向	おそらく一人で学習を始めるので、学習の様子を見守り、必要に応じて声をかける。
学習の調整力、充実感が低い傾向	学習の中でどのようなことがわかったか話しかけることで言語化できるようにする。

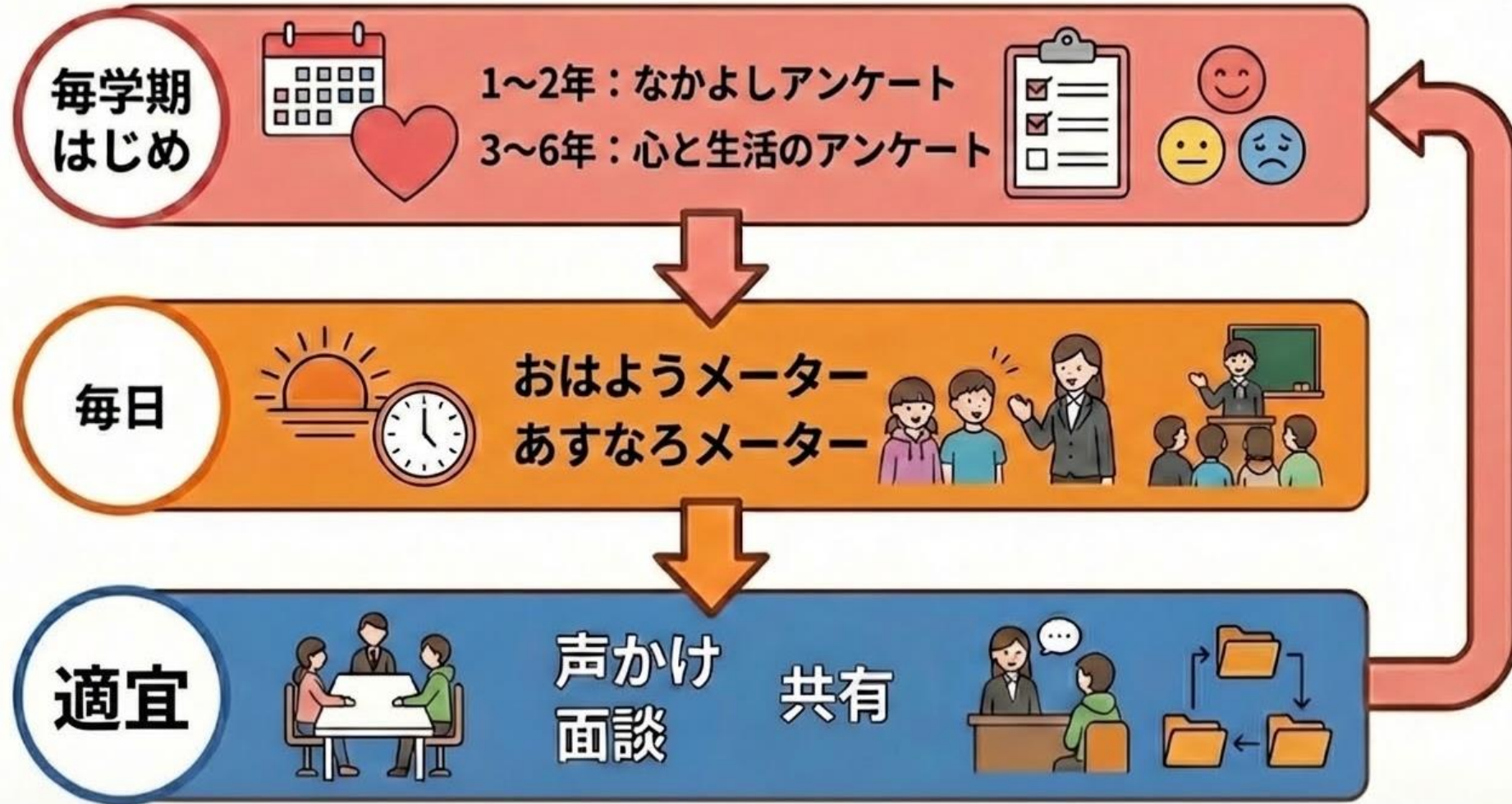
○令和7年度 美園小学校 教育データ利活用の実践取組について③

取組イメージ① 学習・評価サイクル



○令和7年度 美園小学校 教育データ利活用の実践取組について③

取組イメージ② 心と生活のサポートサイクル



○令和7年度 美園小学校 実践内容について（ふりかえり）

段階的なふりかえりの指導



○令和7年度 美園小学校 実践内容について（ふりかえり）

R7 ふりかえりの視点・形式

ふりかえりの基本構成 （＋ふりかえりの共有化&フィードバック）

① 学習内容（何を学んだか）

わかったこと、できたこと

② 学習方法（どうやって学んだか）

個人・ペア・グループ、先生と

教材（教科書、PC、ノート、本）や方法（話し合い、比べる、調べる）

③ 次に向けて・感想・疑問

わからなかったこと、できなかったこと

次は〇〇を□□したい（やってみたい、直したい、調べたい）

～はなぜ〇〇なのだろう？

○令和7年度 美園小学校 実践内容について（ふりかえり）

きょうのじゅぎょうを
ふりかえってみよう！

じゅぎょうをふりかえって、どれくらいわかったか、かんがえてみよう！



ふりかえりのかきかた

- 1 がくしゅうないよう（なにをまなんだか）
・ わかったこと、できたこと
() が、わかりました。
() が、できました
() を、しました。
- 2 つぎにむけて、かんそう・おもったこと
つぎは、() たいです。

ふりかえりのかきかた

- 1 がくしゅうないよう（なにをまなんだか）
・ ○○がよくわかりました。
- 2 がくしゅうほうほう（どうやってまなんだか）
・ だれと（ひとり、ペア、グループ、クラス、せんせい）
・ なにで（きょうかしよ、PC、ノート、プリント、ほん）
・ どうやって（かいて、けいさんして、はなしあって、くらべて、まねして、ためして、しらべて など）
- 3 つぎにむけて、かんそう、ぎもん
・ ○○がわかりませんでした。
・ ○○がむずかしかったです。
・ つぎは○○を□□したいです。
・ ○○にちょうせんしてみたいです。

ふりかえりのかきかた

- 1 がくしゅうないよう（なにをまなんだか）
・ わかったこと、できたこと
- 2 がくしゅうほうほう（どうやってまなんだか）
・ だれと（ひとり、ペア、グループ、クラス、せんせい）
・ なにで（きょうかしよ、PC、ノート、プリント、ほん など）
・ どうやって（かいて、けいさんして、はなしあって、くらべてまねして、ためして、しらべて など）
- 3 つぎにむけて、かんそう、ぎもん
・ わからなかったこと、できなかったこと
・ つぎは～を○○したい（やってみたい、直したい、調べたい など）
・ ～はなぜ（どうして）○○なのだろう



ふりかえりの良さ

- 1 自分の強みや弱みがわかります。
- 2 学んだことをしっかりと覚えられます。
- 3 次の学習目標が設定しやすくなり、たっせい感もえられます。
- 4 問題解決能力が高まります。
- 5 メタ認知能力が高まります。
簡単に言うと「自分の考え方や学び方を考える力」のことです。
例えば、勉強しているときに「今、何を理解していて、何がわからないのか」を自分で考えることがメタ認知です。

ふりかえりの書き方

- 1 学習内容（何を学んだか）
・ わかったこと、できたこと
- 2 学習方法（どうやって学んだか）
・ だれと（一人、ペア、グループ、クラス、先生）
・ なにで（教科書、PC、ノート、プリント、本 など）
・ どうやって（書いて、計算して、話し合って、くらべてまねして、ためして、調べて など）
- 3 次に向けて、感想、ぎもん
・ わからなかったこと、できなかったこと
・ 次は～を○○したい（やってみたい、直したい、調べたい など）
・ ～はなぜ（どうして）○○なのだろう

個別最適な学びの視点	一体的な充実を目指す！	協働的な学びの視点
1年生 ・本時の学習に正対する、ふりかえりの充実 2年生 ・国語科における、児童が見通しをもって学び進めることができる学習のめあての工夫 3年生 ・児童が自分で課題を見つけ、自分に合わせた学習を行うためのふりかえりの充実 4年生 ・課題を自分ごととして捉えるためのふりかえり活動の工夫と充実(複数教科) 5年生 ・国語科算数科において、児童が自ら学びの場やツールを選択できる工夫 ・主体的な学びへとつながるふりかえりの仕方の工夫 6年生 ・自らの学びを調整するための支援の工夫と充実 にじいろ ・発達段階に応じた学習内容の精選		1年生 ・意見の伝え方の技術的な支援の工夫と充実 2年生 ・国語科の話し合い活動における、考えを深めるための技術的な支援の充実 3年生 ・児童が必要感をもって交流するための技術的な支援の工夫 4年生 ・交流を通して課題に気づくための技術的な支援の工夫 5年生 ・目的を意識した話し合いを行うための視点の検討 ・効果的な交流活動を行うための技術的な支援の検討 6年生 ・自らの学びを深め、主体的に協働するための支援の工夫 にじいろ ・個々の意見を尊重し、お互いを認め合える授業の工夫

○令和7年度 美園小学校 各学年の実践内容について（1年生 概要）

1年生の挑戦！「個別最適な学び」と「協働的な学び」の実践まとめ

個別最適な学びの工夫



学び方を選ぶ環境と
「ふりかえり」の型を提供

児童はブロック・図・言葉などから
解決方法を選択。ふりかえりは
書き方のモデルを提示した。

一体的な充実



ふりかえりを文章で
書ける児童が増加

授業ごとの評価で意欲が向上し、
学びの指標アンケートの数値も
改善した。

協働的な学びの工夫



発表の「話型」で
伝え合いを技術的にサポート

「まず～、つぎに～、さいごに～」
といった型で、順序立てて話す
練習を重ねた。



多くの児童が「話型」を使い、
自分の考えを伝えられるように

自分の考えと友達の考えの違いを
比べるなど、学び合いの姿が
見られた。

成果と今後の課題



型の活用は定着しつつあるが、
内容を深めるには更なる支援が必要

発表では話型を意識するだけで精一杯になる
児童もあり、考えの深まりが今後の課題。

○令和7年度 美園小学校 各学年の実践内容について（1年生 手立て）

きょうのじゅぎょうを
ふりかえてみよう！

じゅぎょうをふりかえて、どれくらいわかったか、かんがえてみよう！



ふりかえりの
かきかた

(1) がくしゅうないよう
わかったこと
・○○がよくわかりました。
わからなかったこと
・○○がわかりませんでした。
・○○がむずかしかったです。

(2) つぎのじゅぎょう
つぎにがんばりたいこと
・つぎは○○を□□したいです。
・○○にちょうせんしてみたいです。

3つのかぎのけいさん			
	きょうのきかいを たっせいできた。 (○、□、△)	すすんでよくしゅうぶ できた。 (○、□、△)	ふりかえり ・○○ということがありました。 ・△△がむずかしかったです。
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			

①まず、○○○○しました。

②つぎに、□□□□しました。

③さいごに、△△△△しました。

はつぷようの
しかた

○令和7年度 美園小学校 各学年の実践内容について（2年生 概要）

2年生の実践報告：「個別最適な学び」と「協働的な学び」の挑戦

一体的な充実



個別最適な学び：
「ふりかえり」の質的向上を目指して

ふりかえりの「仕組み化」で学びを自分事に

テンプレート

ループリック

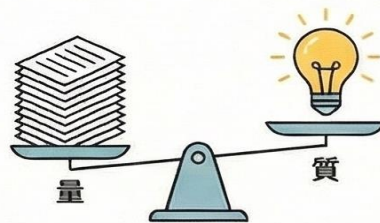
優れた
事例の共有

テンプレートやループリック、優れた事例の共有で、児童の記述力向上を支援しました。

85%

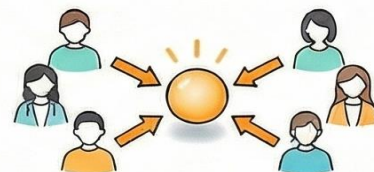
児童の85%が3項目
のふりかえりを
記述可能に

課題：記述の「量」は向上、
今後の「質」が課題



協働的な学び：
「考えを深める」話し合いの実現

「考えを深める」とは何かを定義・共有



話し合いの目的やゴール
（話す・聞くポイント）を
明確に提示し、質の高い
交流を目指しました。

課題：語彙力不足で、
交流が形式的になる場面も



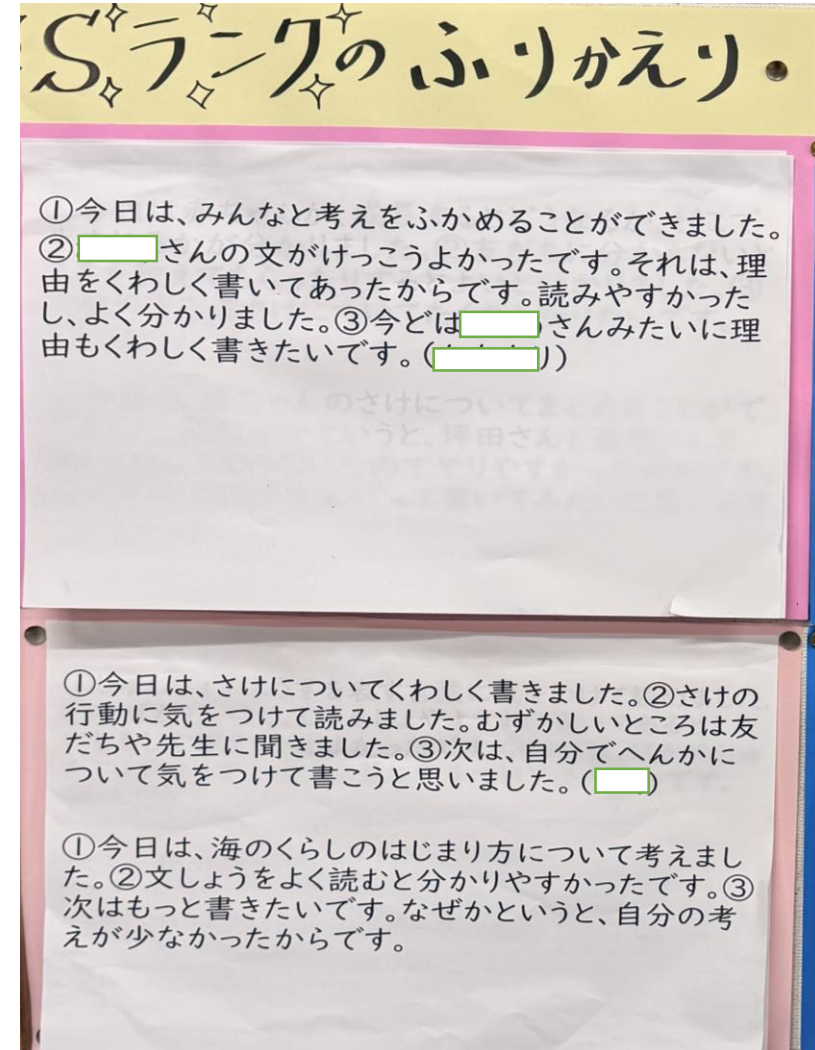
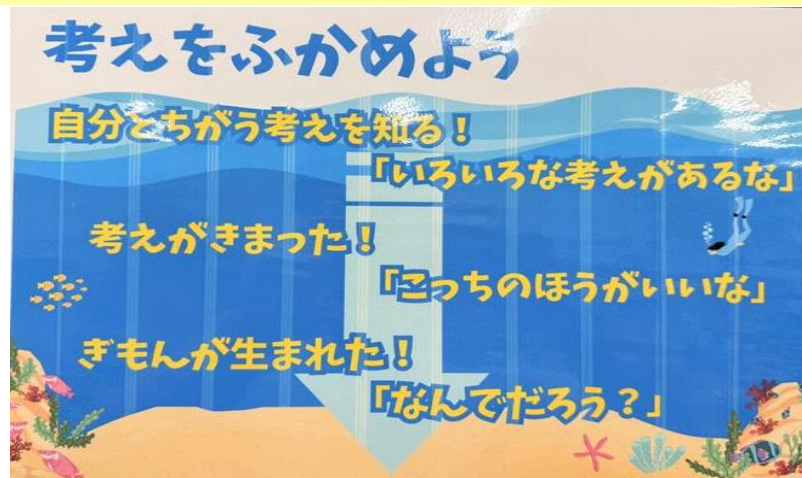
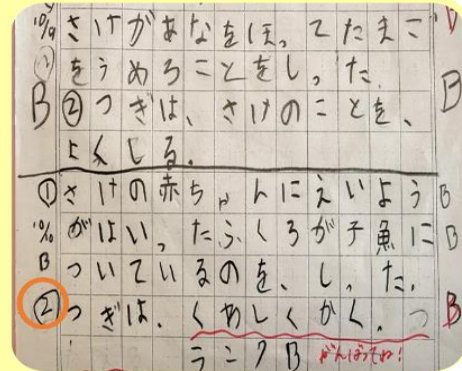
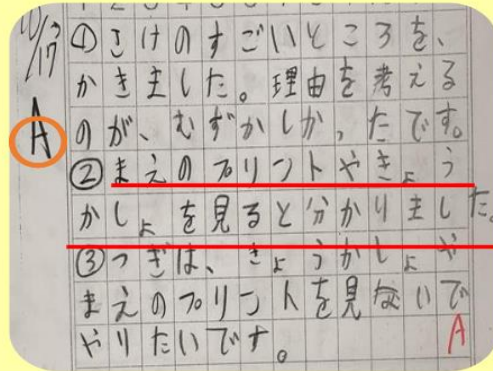
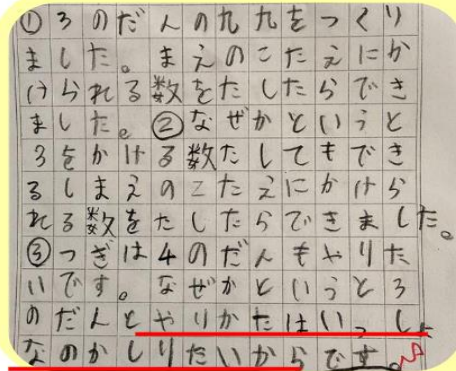
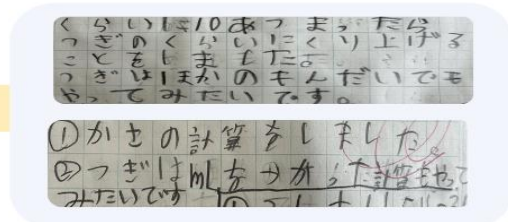
話し合いで使える言葉を指導するなど、
表現力を高める支援が求められます。

90%+

90%以上の児童が
「考えが深まった」
と実感

92%が「新しい考えに気づいた」と回答
し、交流の有効性が示されました。

ふりかえりの変容・自己評価



↑他者参照のための掲示

○令和7年度 美園小学校 各学年の実践内容について（3年生 概要）

3年生の実践：『個別最適な学び』と『協働的な学び』の一体的な充実



個別最適な学びの工夫



学習の「選択」で主体性を引き出す

児童が「何を・どう・誰と」学ぶかを選択することで、学習への主体的な参加を促した。



「ふりかえりシート」で学びの調整を促す

学習内容、方法、満足度を紙のシートに記述させ、児童自身の学びのメタ認知を支援した。



ふりかえりの質が向上し、次時への意欲が見られた

継続的な実践により、児童の記述内容が具体的になり、次の学習への視点も生まれてきた。



協働的な学びの工夫



「目的」を明確にした交流時間を設定

実験の途中に交流の場を設け、結果の共有や新たな発見につなげる目的意識を醸成した。



交流の「視点」を与え、学びを深める

何について話し合うかの視点を示すことで、単なる会話で終わらない対話的な学びを実現した。



学習指標の数値が向上

実践の結果、「主体的な学び」や「探究的学び」に関するアンケートの数値が上昇した。

なんのために話し合う？



- ・これ、どうかな？
- ・どうしたらいい？
- ・こうしたらいいんじゃない？

- ・なるほど！そんな考えもあるんだ！
・その考え、使えそう！

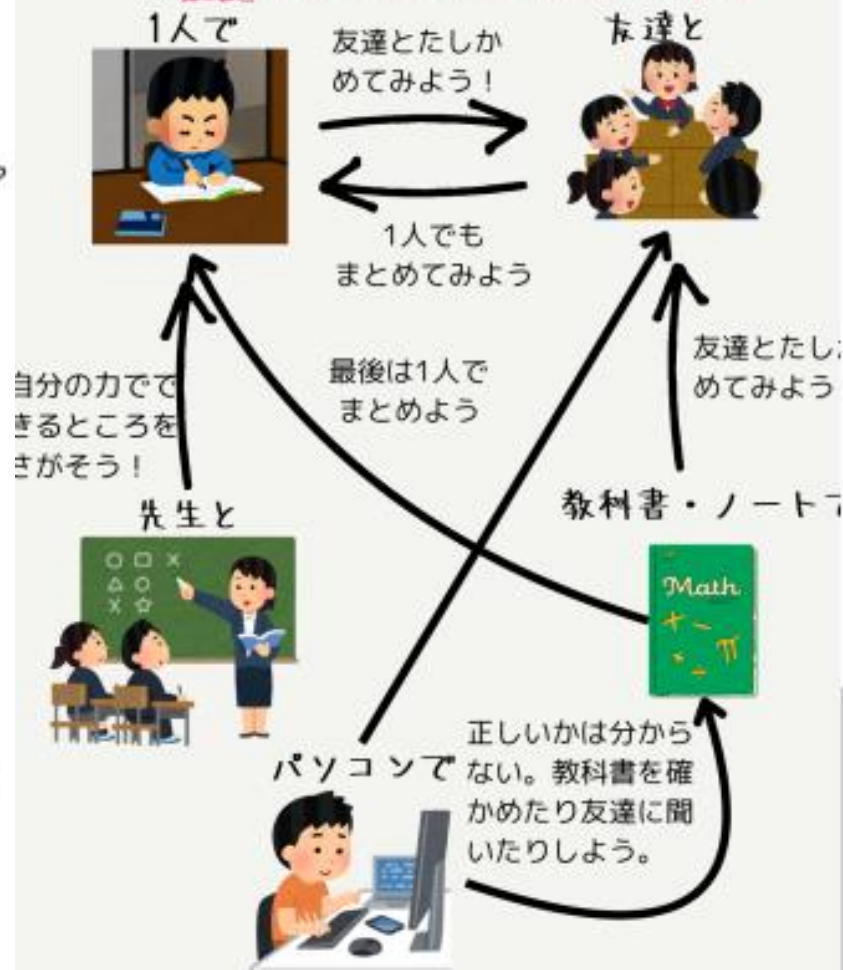


- ・そんな考えもあるんだね
- ・こっちの方がいいかも！

考えを
らべよう！

目てきをもって話し合おう！

どうやって学習する？



勉強したこと	ふりかえり
3 こん虫のおみか	いろいろなおみかをしました。 これからは、15しゅうに1本の虫をかんばうして いづし
8 こん虫の本	みんなはねは4まい、あはら本というのがよく かりました。では、しょうかとがどんな形のものか らえてみたりです。
こん虫の育ち方	今日はこん虫の育ち方を学びました。PCでやるのとくさん みたりしました。では、本でまわてみたりに思いました。

	①学習内容 (何を学んだか)	②学習方法 (どうやって学んだか)	まんぞく度 ● ○ △
例	・わかったこと、できたこと ・わからなかったこと、できなかったこと	・(一人、ペア、グループ)で、先生と、話し合って、比べる、など ・～はなぜ〇〇なのだろう。 ・次は～を〇〇したい。	● ○ △ B+
1	予想はたてられたが、 形がかわるだけ、重さ がかわるのかわらない。	今日はグループで、 でも、なぜ、形をかわるだけ、重なる か、次は、さんと調べたいです。	B+
2	「形をかえても、 重さは、かわらない 1」ということがわかった。	今日は、友だちと二人で、 しました。きもんに思っ は、なぜ、手は重く感じたのに、 てみて、だと、かわらないと、わかった。	A

○令和7年度 美園小学校 各学年の実践内容について（4年生 概要）

4年生の実践：個別最適な学びと協働的な学びの充実

一体的な充実

個別最適な学び：「自分事」として捉える学習へ

課題
従来の振り返り活動
は児童のモチベーショ
ンが低かった



紙への手書きが負担とな
り、家庭で時間をかけて
行う児童もいた。

手立て：「疑問」を
蓄積する振り返り
活動へ転換



Excelの共同編集機能を活用
し、PC入力で「学んだこと」と
「疑問・不思議」を毎時間記録
させた。

成果
蓄積した「疑問」から
調査テーマを決定し、
学習の主体性が向上



自分の興味から生まれた課
題に取り組むことで、学習
が「自分事」になった。

協働的な学び：「深い学び」につながる交流へ

課題
発表後の質問が
表面的で、交流が
深まらなかった



「褒義の仕方が良かった」と
いった感想に留まり、内容に
踏み込んだ対話が生まれにく
かった。

手立て
「社会の見方・考え
方」を質問の視点
として提示



場所、協力、変化などの視
点から質問することを促し、
対話の質的向上を目指した。

成果と課題
教員が「見方・考え
方」を意識した問い
を発することが重要



児童が自発的に視点を活用
するのは難しく、教員が学
習課題を設定する設槽で組
み込む必要があった。

その他の効果的な取組



教科書への直接書き込み
児童が資料と文章を結びつけや
すくなり、学習に取り組むハード
ルが下がった。



発表スライドは図や写真が中心
発表準備の時間が短縮され、児童の
表現スキルも向上した。



児童の疑問を教員が想定する
学習につまずく子を救い、意数の
高い子にはより深まるテーマを提
供できた。

○令和7年度 美園小学校 各学年の実践内容について（4年生 手立て）

個別最適な学びの視点・・・

課題を自分事として捉えるための
ふりかえり活動の工夫と充実（複数教科）

①「毎授業の振り返り」に「疑問・不思議」を追加

②授業をするごとに「疑問・不思議」が振り返りに蓄積

③蓄積した「疑問・不思議」から一番興味があることをテーマに

水害は、海からくるものだと思っていたが、この授業を通して川の合流したところや普通の川からあふれ出して水害が起きるとういしりびっくりした。川が162個あることを知ったけど、その川がどこにあるのか、それともどこに川が多いのかを調べたいです。

カスリーン台風から、国や、県だけが水害などの対応をしようとしたら、さいたま市も関係していたことをしり大変だと思いました。教科書に、国や県、関係するところから情報を集めてと書いていたがどのような情報を集めているのかを調べたいです。

今回の授業を通して、地域の人たちは市や県と連携、小さなことをしていることがわかりました。地域の人たちは、どのようなときに市と協力しているのか。

地域の人と市の協力

※社会科の疑問・不思議の追加

※国語科のチェックリスト

伝えたいことを一番上を書く。
見出しの大きさ。
表・グラフ・写真・イラスト。
興味を引く内容。
文字の太さ。
色。
記事を線や四角で分ける。
興味を引く見出し。
一文を短く。
、や。（句読点）。

※社会科の見方・考え方の表
（辻南小より）

社会科の見方・考え方			
できごとや人々	時期や時間	位置や空間的な広がり	
 工夫、思いや願い、ど力、関係、協力、仕組み、	 いつ、はじまったきっかけ、変化、発展、以前	 位置、大きさ、どこ、はんい、地形、環境、土地	
理由を考える	整理して、比べて考える	関連付けて考える	自分ならどうするか考える
			

○令和7年度 美園小学校 各学年の実践内容について（5年生 概要）

5年生の挑戦：「個別最適な学び」と「協働的な学び」の 一体的な充実

個別最適な学び：一人ひとりの学習を最適化する工夫

学習方法・習熟度コースの
自己選択制



児童が課題に応じて学習形態（個人・ペア等）
や3段階の習熟度コースを毎時間選択しました。

ふり返りの質的向上と
自己調整力の育成



Excel等を活用し、教員からのフィードバック
を可能にし、次時の学習計画に繋げました。

協働的な学び：学びを深めるための交流の工夫

異スキル間の交流による
学び合い



習熟度の高い児童（イルカコース）が中間の児
童（メダカコース）に教える活動を促しました。

交流の目的を明確化する
ツールの活用



「誰と」「何で」学ぶかをカードで示し、目的
意識を持って交流できるよう支援しました。

実践の成果と今後の課題

成果：主体性の向上と
知識・技能の定着



課題：思考・判断力の
伸び悩み



○令和7年度 美園小学校 各学年の実践内容について（5年生 手立て）

Aさん	分数を小数で表す方法	自分は花コースでした。分母と分子を間違えずに にできてよかったです。	B-
	分母をそろえることの意味	課題を見てひとりではできなさそうだったので、葉っぱコースにしました。花コースやつぼみコースではわからないことが葉っぱコースではわかりました。この単元は苦手なので、わからなくなったときは葉っぱコースへ行きたいです。分母が違う分数の足し算は初めてやりました。本間さんが気づいていた、2倍、3倍と分子が増えると同じように、2倍、3倍と増えるというのがわかりやすく、数直線もいらなくてすごいなと思いました。でも前回の単元と似ていて決まりや説明の仕方がはっきりとしているので、よく考えてとくみたいです。	A
Bさん	分母をそろえることの意味	今回も前回の単元に引き続き、分数の単元で、今度は分母が違う分数のたし算をしました。最初は、分母同士をたして分子同士をたすと答えが出ると思いました。けれど、この授業の初めの今までやったことを思い出すごに、分母が元だから変えたらダメ。ということを出して、ちがうかも...と気づきました。本当の答えは、分母の最小公倍数と、分子をそのまましたものでした。今回は、やったことがない問題で、おぼろしかったのでつぼみコースを選びました。不案なときは、つぼみコースを選んで、友達と話し合った方がいいなと思いました。内容確認の時に、葉っぱコースが学習していた黒板を見ると、分母が2倍になると、分子も2倍になっていて、分母と分子は比例しているということが分かりました。	A

クラス

先生と

③ 考える

② 調べる

① 決める

1人

PCで

学習のしかた

学習のめあて

ミニミニボードの準備をしよう。

テーマ、役割、利点、問題、聞き役、2人

立場、意見の根拠、いくつか、具体例

まとめ、相手の立場、考えてみる、開かそうなること、2人、2Q&A、ま、とめる、だ、だ、ら、い、

グループ

○令和7年度 美園小学校 各学年の実践内容について（6年生 概要）

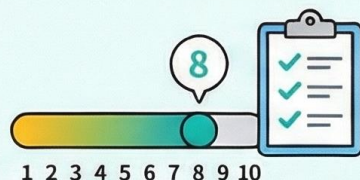
6年生の実践：自己調整学習で育む「個別最適な学び」と「協働的な学び」の一体的な充実

個別最適な学び：自らの学びを調整する



学習ルート自己選択

生徒が自身の理解度に合わせて、3つの学習コース（ルート）から自分の進め方を選択します。



「振り返りシート」による学びの自己評価

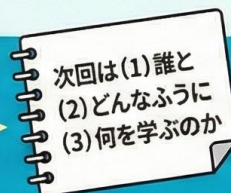
10段階評価で学習計画や方法を自己評価し、次の学習への見直しを立てます。



振り返りの記述例

(3) 何を学ぶのか

を具体的に記述します。



次回は(1)誰と
(2)どんなふうに
(3)何を学ぶのか

協働的な学び：他者と関わり学びを深める



1人での探究



ペア



グループ

多様な協働形態の提示と選択

1人での探究、ペア、グループなど、生徒が必要なタイミングで協働の形を選択できます。



移動式ホワイトボードの活用

考えを可視化し、グループの垣根を越えた活発な意見交換や学び合いを促進します。



【成果】

生徒の主体性と学習意欲が向上
特にこれまで自主性が低かった生徒の意欲が向上し、小グループで中心的役割を担う姿が見られました。



実践の成果と今後の課題



【課題】

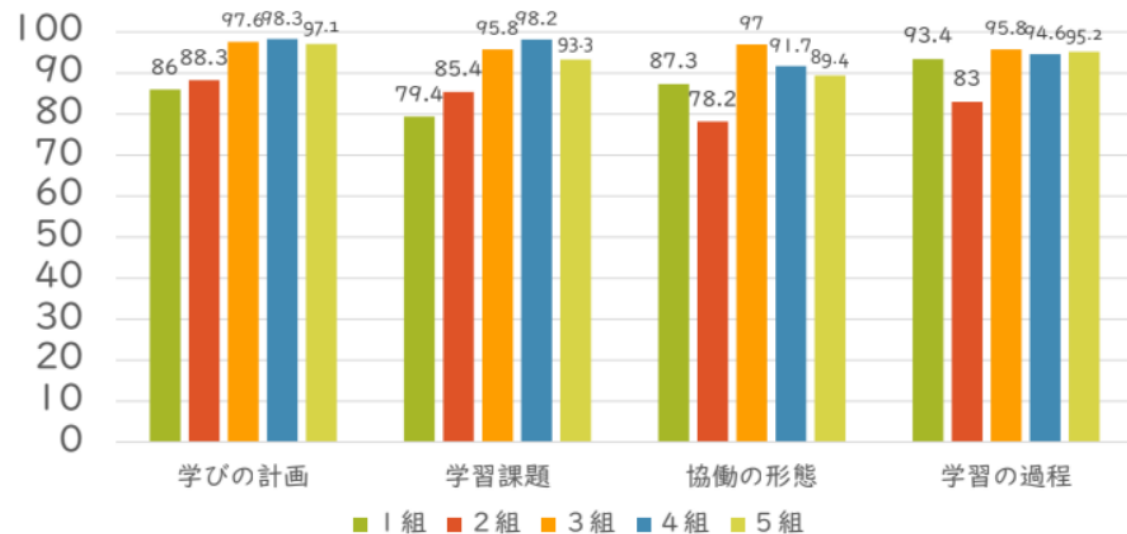
協働の深化と教員の負担軽減
一部のグループが固定化する傾向や、単元全体を見渡した教員の準備負担の増大が課題です。



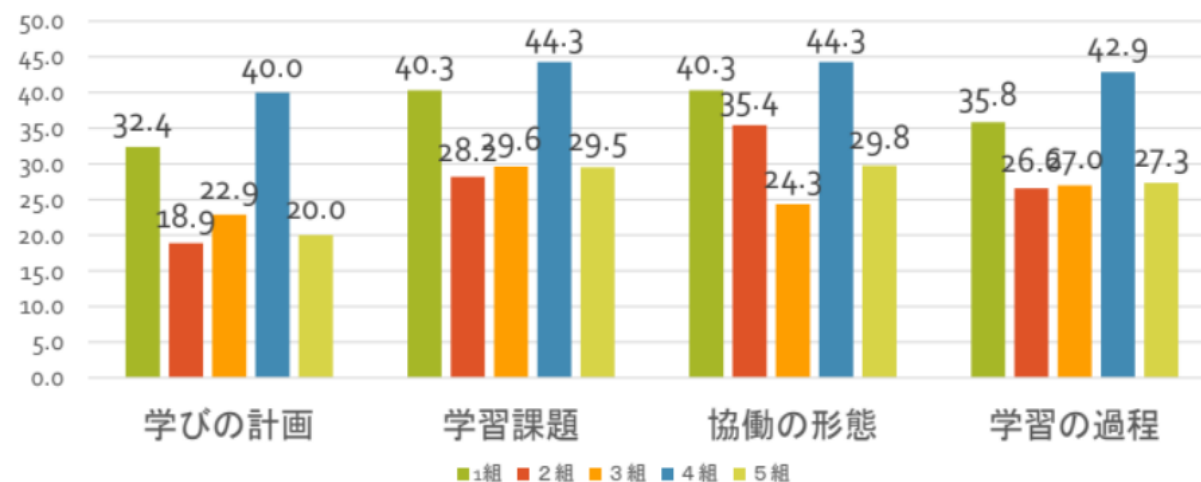
○令和7年度 美園小学校 各学年の実践内容について（6年生 手立て）

中間報告時結果①

全ての項目でS評価達成



振り返りで自分の学習に最高評価（9・10）を付けた割合



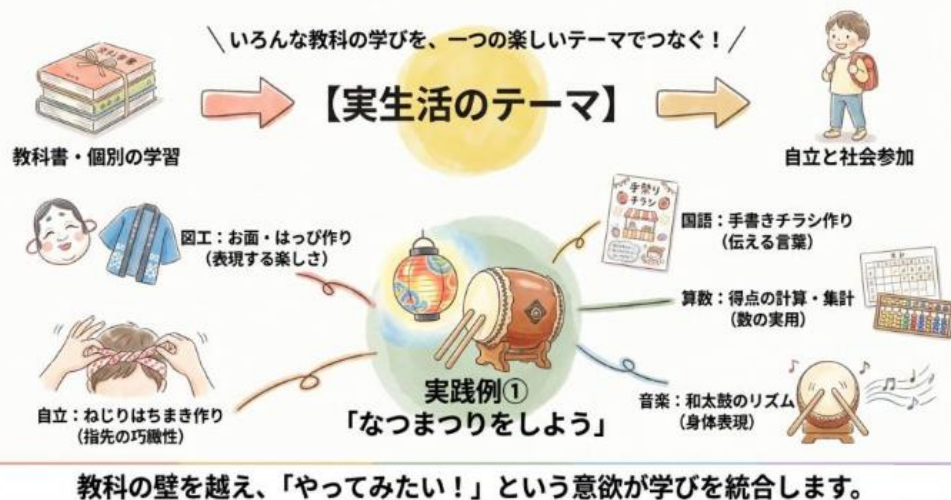
10段階にすると、最高評価を付ける児童は激減。→自己調整ができているのでは？

○令和7年度 美園小学校 各学年の実践内容について（にじいろ学級 概要・手立て）

一人ひとりが輝く学びのかたち：にじいろ学級の実践
多様な個性が共存する、温かな教室の精神



学びのエンジン：「生活単元学習」とは？



主体性を育む会社活動：「カード屋さんをしよう！」
実践例②：～にじいろカンパニー～



にじいろ学級の学びの成果：データで見る成長

学校の勉強は好きですか？

87%

前年度より2% UP

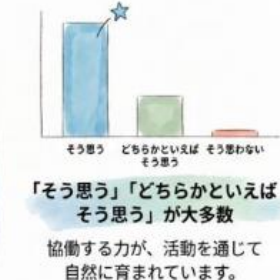
学ぶことへの意欲が着実に向上しています。

生活単元学習は好きですか？



ほぼ全員が、この学習スタイルを楽しんでいます。

友達と助け合っていますか？

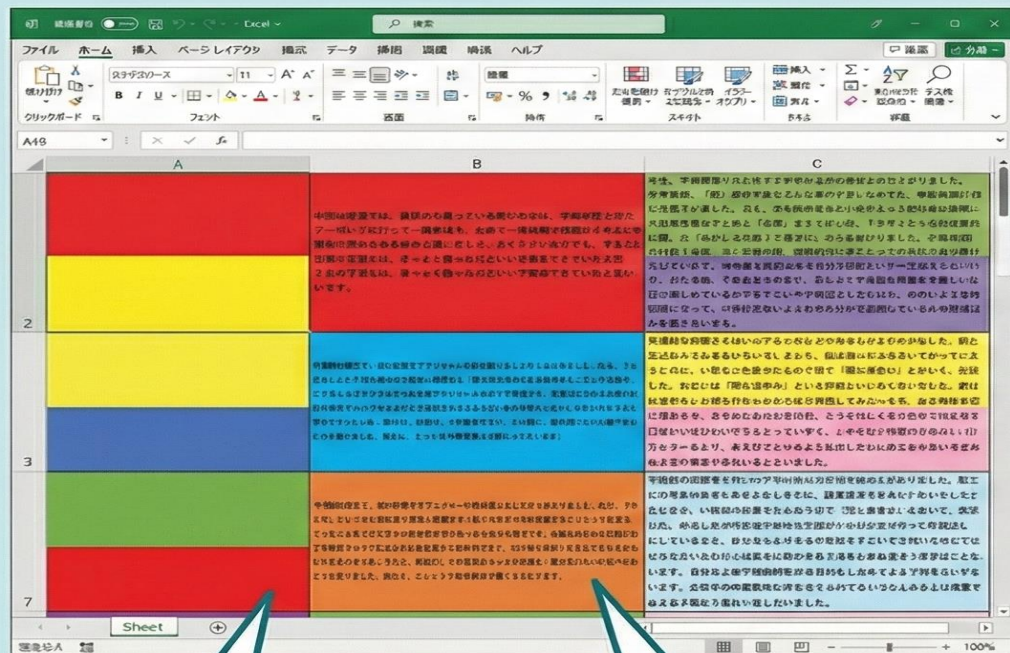


結論：一人ひとりの興味と選択を尊重し、仲間と協力する楽しさを通じて、子どもたちの確かな「学びたい心」と「生きる力」を育んでいます。

○令和7年度 美園小学校 実践内容について（その他）

エクセルを活用した授業のふりかえり実践と成果

実践



授業終わりにエクセルで
振り返りをさせる

カテゴリーごとに色を変え、多様な記述方法が児童につたわるようにした

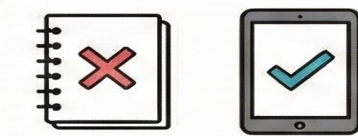
実践の結果



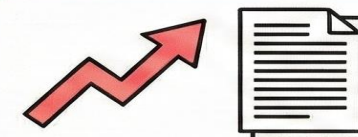
エクセルの色を変えたことで、
多様な表現方法が児童に
伝わった



内容面や文章量などよかった児童を
クラスで紹介したことで、
自主学習で取り組む児童がいた



ノートに書くことが難しい児童でも
振り返りを実践できた



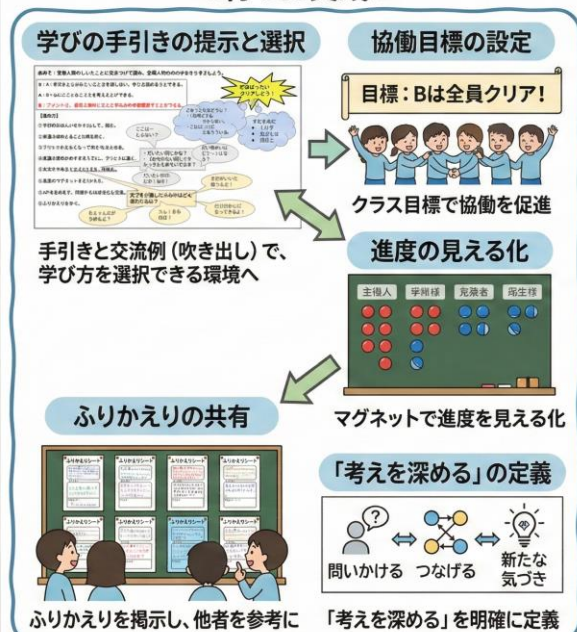
中間層以上の児童中心に予想より
多くの文章量で書くことができた。



一定数以上の文章量を書く児童が多かったため、
タイピング技術につながった

○令和 7 年度 美園小学校 実践内容について（その他）

《行った実践》



《実践を行った結果》



めあて：登場人物のしたことに気をつけて読み、登場人物の心の中をそうぞうしよう。

S : A+友だちと心にのこったところを話しあい、考えを深めることができる。

A : B+心にのこったところを考えることができる。

B : プリントに、登場人物のしたことや心の中を整理することができる。

【進め方】

④その日のはんいをかくにんして、読む。

①登場人物のしたことに線を引く。

②プリントにしたこと・できごとをまとめる。

③登場人物の心の中をそうぞうし、プリントに書く。

④友だちや先生とかくにんする。深める。

⑤黒板のマグネットをうらがえす。

⑥AやSをめざす。時間があれば友だちと交流。

⑦ふりかえりをかく。

ここは～

- ・だいたい同じかな？
- ・（分からない時）どうやってまとめているかな？

だいたい同
だね！OK

友だちが書いた心の中はどんな感じかな？

ちよつとちが
うかちよ?

へえ！なる
ほど！

〇〇がいいと
思ったよ！

〇〇が同じだね！にてるね！

そのために

- 1人で
- 友だちと
- 先生と

➤ Bはぜったい
クリアしよう！

か ○○のだんのつくり方を考えよう

docs.google.com – 全画面表示を終了するには、 Esc を押します

S:つくり方を二つ以上せつ明できる.

A: 1 つのつくり方をせつ明できる

B:九九をつくることができる

①もんだいのかくにん

②考えを書く

③せつめいしあう

④まとめを書く

⑤ふりかえり

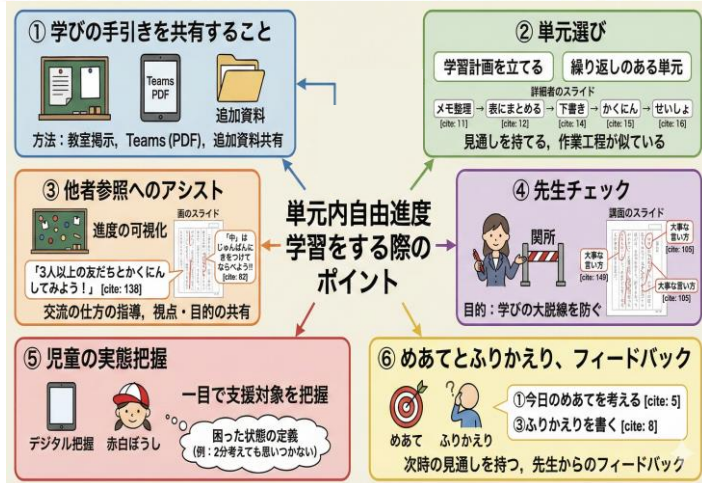
合ってるかかくにん

同じ、ちがうさがし

友だちの考えとくらべて、にて
いるところをまとめよう

答えは同じだね
こちがうね。
どうやって考え
たの？

～というところ
が同じだね！
ちがうね！



○令和7年度 美園小学校 実践内容について（その他）

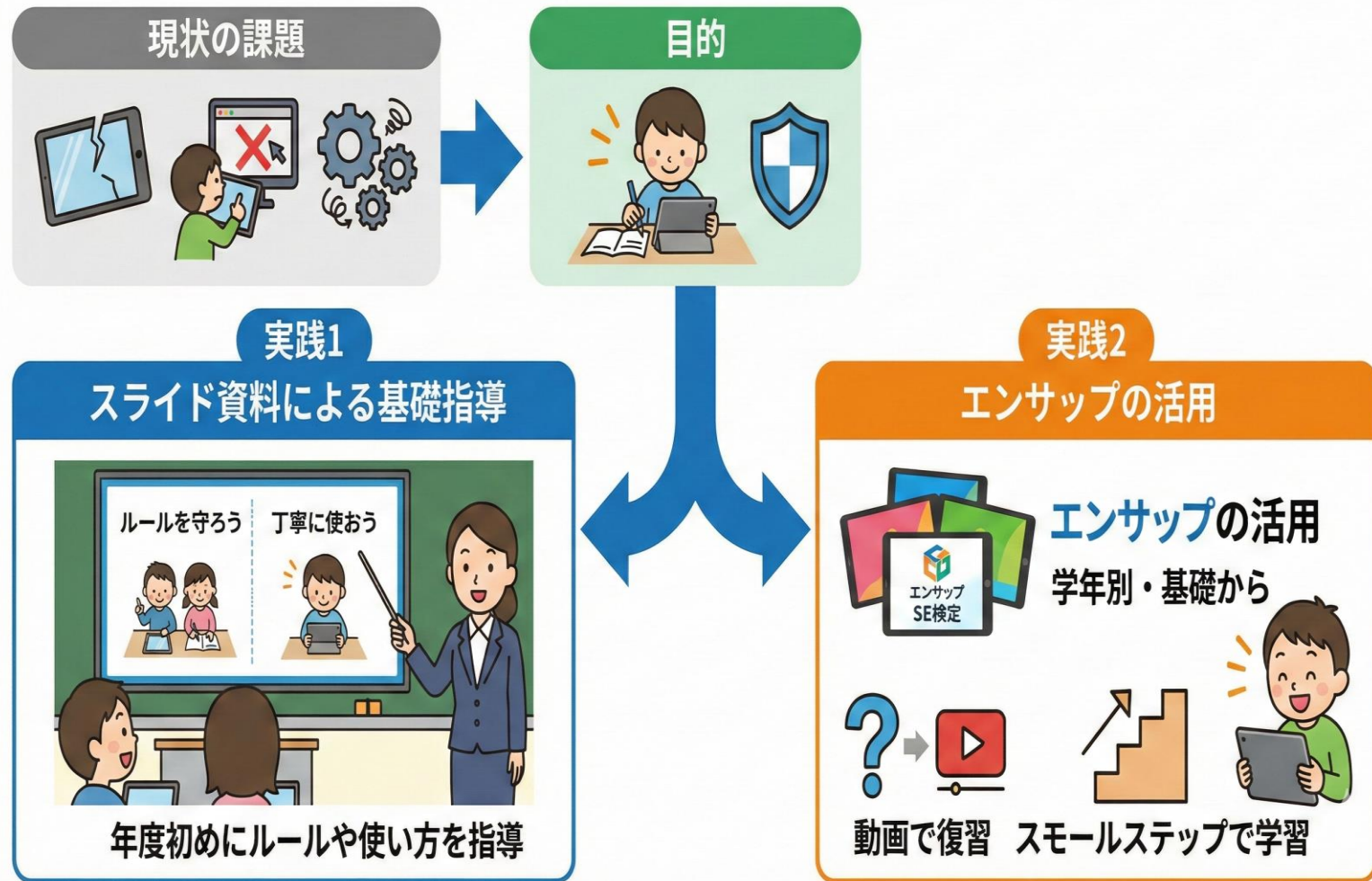
PCの安全・効果的な学習活用に向けて

《スライド資料による基礎指導（ルールの提示、教師の願いなど）》

本校では、児童のPC利用におけるルールの形骸化（不適切なサイト閲覧、設定変更など）や、機器の破損が課題となっていた。この状況を改善し、児童がPCを安全かつ効果的に学習へ活用できるようにするため、年度初めに改めてPCの使い方やルール順守などについて指導する時間をとった。

《エンサップの活用》

低学年から高学年まで、学年に応じて指導内容等も異なるため、朝学習の時間を利用してエンサップを活用した。担任がクラスの実態に合わせて視聴するものを選ぶようにした。個に合わせてスモールステップでICTや情報モラル学習に取り組むことができた。



○令和7年度 美園小学校 実践内容について（その他）

タイピング学習

2年生から始める！ローマ字タイピング習得ロードマップ

小学校2年生がわずか数週間でローマ字タイピングをマスターするための、4つのステップからなる指導法と、その成果を分かりやすく伝えます。

タイピング習得への4ステップ

ステップ1：ひらがな「あいうえお」からスタート



まずは「らっこたん」を使い、基本の母音を見ないで打てるまで繰り返し練習させます。

ステップ2：毎朝のルーティーンに組み込む



「準備→おはようメーター→らっこたん」という流れを習慣化し、タイピングを当たり前にします。

ステップ3：Teamsで「書く楽しさ」を体験



「好きな動物は？」などの簡単な質問に返信させ、文字を打つ楽しさを実感させます。

ステップ4：ローマ字のルールを学ぶ

ローマ字表をキーボードの下に貼り、子音と母音の組み合わせで文字が作れることを教えます。



ワンポイント：穴あきローマ字表が効果的



完成版より、自分で考える「穴あき」の表を選んだ児童の方が習得が早い傾向にありました。

実践の成果

2週間で



2週間で：簡単な文章入力が可能に
Teamsで自分の好きなものについて、文章で返信ができるようになりました。

1か月で



1か月で：半数以上が表を見ずに入力表を見る児童も入力度が大幅に向上し、クラス全体のスキルが上がりました。

副次的効果：自然なSNSリテラシー教育



Teamsでの会話を通じ、言葉遣いや適切な使い方を指導する良い場合になりました。

○令和7年度 美園小学校 実践内容について（その他）

校務DX

